

メニエール病犯人は耳石片

記事拡大

**大阪市立大
教授ら確認** 管詰まらせリンパ停滞



メニエール病 150年前、フランス人医師メニエールが内耳の病変でめまいが起ることを発見したが、根本的な治療法は見つかっていない。国内の患者は人口10万人当たり十数人。

難聴や激しいめまいを伴うメニエール病の原因とみられる耳の病変を、大阪市立大の山根英雄教授らが見つけた。これらの症状は平衡感覚をつかさどる耳の奥の「内耳」にリンパ液がたまつて水ぶくれになり、正常な機能が損なわれて起きるが、水ぶくれの原因はわからていなかつた。山根

教授は内耳にある炭酸カルシウムの塊(真石)から小片がはがれ、液が流れ音を詰まらせるのを画像診断で確認した。因の特定疾患に指定されている難病だが、今回の成果で詰まりを除去する根治法開発や予防に期待が寄せられる。

動物の内耳はリンパ液で満たされ、重力や体の動きによって液中の耳石が動い

たりリンパ液が滞れたりするのを神経細胞が感知し、平衡感覚を保っている。山根教授は、メニエール病と診断された患者12人と病気のない12人の協力を得て、耳石大きさ—0.0001分の数万個の入った袋のうち、重力を感知する球形のうとその周辺をコンピューター断層撮影法(CT)で観察、患者8人で袋の重

下にある直徑0.1-1.5ミリの管が耳石から離れて小片がたまっている様子を確認した。病気のない12人と患者4人にはこうした変化はなかった。

山根教授は①管の詰まらないでリンパ液が内耳の外に排出されなくなり、水ぶくわが起る(2)小片が液の流れを乱し、神經細胞が異常に刺激されめまいが起きる。

ると推定。「耳石を除去する、より効果的な方法を討している」と話していく。メニエール病の原因ストレスによる自律神経障害内分泌系の失調など諸説あり、これまでには主に薬物療が試みられてきた。しかし、山根教授らが発見し、管の詰まりなどの物理的因素は重視されず、あまり調べられていないかった。

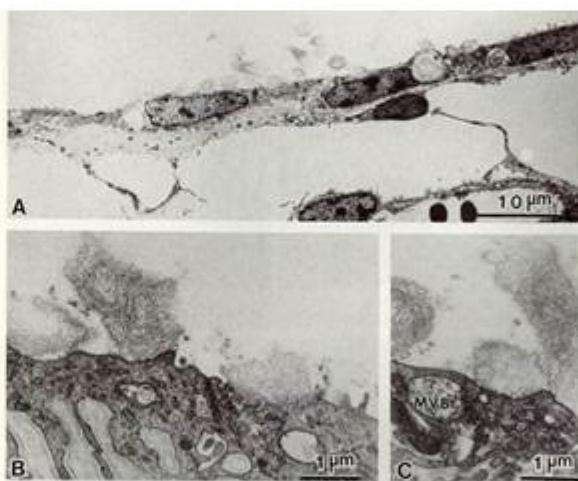
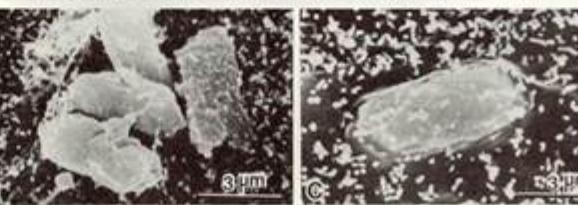


Fig. 4. The lateral wall cells of the sacculus after SM injection. (A) Various kinds of satoconia are observed on the lateral wall cells. Note the surface of the cell is indented and contains satoconia. (B) Some satoconia are being dissolved on the surface of the lateral wall cells. (C) Multivesicular body (MVB) is in the lateral wall cells.



落下耳石の様子

写真資料